

広報・教育部門

応募事例名

岡崎市モデル「統合報告書」の作成 —下水道のプレゼンスアップへ—

応募団体名)岡崎市

応募事例の概要

多くの上場企業が株主や投資家等とコミュニケーションをとるために事業内容、財務情報、持続可能性などをまとめた統合報告書を作成している。そこで、本市では上下水道事業の統合報告書として「岡崎市上下水道事業サービスレベルレポート」を作成した。

- 市民の事業内容への理解度や事業への信頼感を向上することによる市民の経営参加を促すようなトピックスを選定し、特集記事を掲載した。
- 決定した経営方針ではなく、現状の水道事業に対する経営者(=事業管理者)の認識や今後の経営方針に対する考え方などを重視した。
- 経営状況の分析とともに読み手が経営状況を客観的に考えることができるような経営指標を掲載した。
- 現場で職員や工事業者の従業員などが働く様子の写真を積極的に掲載した。



内容

1 経営方針

経営者が現状分析、取り組むべき課題や目指す方向性を提示

2 水道事業の現状を知っていただくための「特集」

事業の理解や満足度向上に資する情報を記事仕立てで紹介

3 上下水道事業の経営状況

経営状況を簡潔に解説するとともに、経営状況を客観的に評価できるような経営指標を提示

4 その他

その他、市民が下水道を理解するうえで参考となる資料を掲載

PRポイント

人口減少や老朽化など、苦しい経営状況の中で事業の持続性を確保するためには、市民の経営参加が不可欠である。本取組により、市民に上下水道の事業内容や役割、歴史、事業が抱える課題などを今まで以上に理解し、経営について考えてもらうことができるようになった。

本市では、今年下水道事業100周年を迎え、マンホールサミットをはじめとした様々な啓発事業を行っている。下水道事業の啓発活動は幅広く行われており、認知度が向上しつつあるところであるが、本取組はこの効果を経営面にまでつなげるものであるところに意義がある。

取組みに関するエピソード

- 上場企業の統合報告書、研究論文、国内外の事業体における先行事例など様々なことから学びながら作り上げた。
- 職員が働く様子の写真が少なかったため、自ら写真を撮影するために何度も現場に足を運んだ。
- 上下水道局全体から様々な取組を集めて分かりやすく説明したため、職員の事業全体への理解向上や技術継承、意識向上などにもつながった。



上下水道局経営管理課
主査 本多 広昌